物語集上編 乙

探荷集六編坤

雪中菴完来判

江戸文庫

午心
一鷺 著

[illegible]

秋之部

さゝ川秋やゝ〳〵世見ぬ夜の雪　蕾成

曙の日を越沒やゝ秋の秋　玉宇

朝日ゆら〳〵ほゝ秋の光ゆ　木母

ふの秋ふゝゆゝ者ゝふ　仝

さ川姉や湖みめぐる昔語り　曙鳥
さつ秋や梅と花紫の初使　仝
日のさよふくんとしらる秋　沖翠
さつ秋や人まつかぜてむ〳〵雀　旭丈
陵乃幕ふる面川やさ鶴の秋　柳絮
秋あつやとゝ海ら宵ふきむ〳〵避　午心
里志は〳〵徳屋の初秋低足ら　大さ梅ゝ石鼎
引絞ら〳〵ふ底の足さ鶴の秋　重雄

迂宮の赤の似ら〳〵さ鶴の秋　木母
さ川妹乃船を射る柳きら〳〵ぶ　恕曲
繁く〳〵き恵数もら〳〵ふ　探巨
妹〳〵繁敬之柴敬ら後相一柴
京〳〵て嘸　相乃ふ〳〵柴ぶ　渡松
志〳〵ふ搗〳〵て焼め浪沖　蕾成
ふ〳〵ふ仲中川やふ川星
悪浦井の影かゝひらんてふの川　沖翠

むらもみぢ　二ツ星　秋川

君の逝　洗ひ流つゝふ　硯ぶ　一雨

ちるもみぢ　二ツ星　六耳

星祭　あるは行ゆく　星の逝　南紙廣庫　淵牛

星ふる川　初てゝ　雲を芋あぶ

秋も南　宿はき　発ぬ　晏ぶ　白川　千隙

息乃ゝ　秋乃つゝき　ぶ　午心

蕭の夢　ゝけるや　貸小袖　たゝ横ゝ　完尓

夕雲の　ちきゝ　こゝろ　秋の風　柳絮

かきつはた　ゝくゝ　ゝ　秋の風　彭壽

秋風や　白服　ゝゝき　髑髏　武小四　義氏

川辺の　ゝゝ　ゝむや　秋の風　雨脈

秋風乃　蓮　ゝ　ゝむ　たゝ横下　草石

曙の逝　ゝ　秋の風　午心

夕雲　ゝ　ゝゆゝよ　秋の風　仝

山ゝ　ゝ　ゝ　秋乃風　金川　重雨

観音の七日のうち　秋の風　大多和　キタ

秋風や義のうまれより青あらず　乃ち

秋風や憚の集てゐる床はら　有隣

ア〻〻〻〻みをおけ藤や秋の風　夢の

人ゐ　美濃　多う　秋乃風　涼菫　笑考久

秋風や雲ゐ知らぬ太郎杉　杞柳

走〻〻〻〻ゆき夫を秋の風　小徐小見川　夢ぬ

秋風や黄葉山乃孫の多　不騫

秋風ゐ母乃美ゐ程女ぶ　伊勢伴　浪伝

多乃秋風流くぬ　老阿

大空ゐ鶴なる秋の風　演松　萬年

一丈の仏流ゐ乃秋乃風　星衣

多〻〻ゐの集新ゐ地ぶ　乃ち

ゐのいなくなきい仏を望の雨　左席

道火ゐせめてと深木賛ぶ　曲舷

思数乃〻〻〻〻揚炮銭　寿九

高燈籠妙の一字を見てゝ　師心
燈籠や濯て志ゝく月の原　未姑
さまゝ乃人よそくり揚燈籠　仝
童の遠里小まや皇太鼓　吐芳
淺茅生に燈を出す皇月　青流
安んの軒を照さや皇の月　遠加茂　泡雲
抱まて泊さる恵や生魂　房列　梅舎
夏痩の腰冷〳〵蓮の仮　五桂

草市や賣て来る曽よ枯尾花　栖地
延髪も孫の為に漉て蒲〳〵　一巵
保昌乃笛よをくらん扨の夏　庄毋
小露やさけ〳〵き吉を小杉原　普成
彩霧乃打よ懸干地寺小　社月
霧こきき死浜の杖結系小　武小巵宮　五樽
素麺を禁〳〵多〳〵葛乃夏　一〳〵
志〳〵霧や面よ面〳〵竹地系　逸翠

荻垣や園を葉ゝ葉門時中

鶏ゝさゝ入旭夕日ゝ　武蔵久　涼葉

玉の結ひ高ゝてかゝる木槿ゝ　路石

ゝゝなゝ　上総小弓川　夢奴

葉乃乃ゝ　咲ゝ　なゝ

湖新や蓋見ゝ命の秋の夜　楚狂

風ゝ結ひ葉を求金や女郎蓋　女　蓋映

葉やゝゝ秋ゝ　房州西条谷　宗山

葉乃ゝや市ゝ隠ゝて夏ゝ月　東白川　涼畊

新新や新ゝ月ゝ　上総飯田　葉境

世ゝ逢ゝ計夕ゝ蓋や葉鶏改　遠州川　可月

蘭の香ゝ正ゝ　木母

行ゝ見ゝ八風の宿女郎蓋　後省人谷　亀流

葉や蓋ゝ　赤の雪　宗路

新新や新ゝ日ゝ　柵架

荻ゝ葉ゝ　涼城

咲まとしを霧見よりいでの萩　　尾張　者邑

葉のまや杉のぬれをもるひまも　　得魚

解をうつむ駒のこるまや芝野原　　彰壽

まもまうつ風ふく　　午心

風のとくいろの多し　　紫石

魁灯や賣より買より欲多し　　金川　雪雲

面知て鶯の巣の巣の巣の巣原　　午心

巣の巣の巣布　　〃

うつ月日の巣や巣巣原　　さま横丁　草石

ら西の巣や曲り行よ奇貨

萩咲や蔓ふくまき京見形　　遠大坂　午心

巣の巣や秋風吾をいろきん　　梅巴

手白ひ草なるひらよの巣　　遠藤　蓼主

攻なる成巣巣白巣　　物我

行岸を出よら（ひ）もも尾巣　　秋杵

ち移る巣の多さよたらひ　　末羽

鶯の枝うちはらひて倒るる花　不二ノ位　花泉

小田畠に水地をかへて営む比　頼房　月兼

蕨こぶ日ながきを忘れぬ　蛍兼

北風よ吹き出せ如来堂　蕎成

刺すはの宿も浅茅の燈火　大ゝ橋下　竹石

彩をうつす染る夏ふかし　雨吟

刺抜と書て林しわ町をつぶす　綿城

池上の門ゆるし稲むしろ　午心

千稲や鶺鴒はしる石河原　兎月　欣白

、

名月や小川妙川西東　班象

名月やかくしけるも伊勢屋　玉珊

名月や岩よみ多く城ぬめ　百境

名月や高ふみうけて庭炉　嘉川　欣白

名月や羅八州乃秋日和　仝

俗世の蓋初うんの月　欣支

名月や山より出し山より澄　蓼汀

清くまどかに川に月　胡嬰（上総下陽口）

三日月や五百枝の杉ぬきの間　如鳶

澄のぼりしるるは月　五総（上総飯地）

雨乃月賊まぬ夜まつゆるし　由之（武蔵久）

月出て美蓼の雨ぶ　蓼ぬ（下総小足川）

名月や七合ばかり白柏子　一丈（南総）

明月や海山も不二の裾　周我（駿府）

新月や夜目乃奥の小杉原　泉布（駿府）

〃　月兼

雁の松月明の夜て鶴し　梅茂（駿府女）

明月や手一ぱい秋の雲　蛍子

武蔵覚戎夕雲て秋の月　普成（上総小西）

ぶんぶん読を杉の月　仙菓（上総大多喜）

明月や不残さらす秋の蟲　秋橋（上総大網）

名月や窓もかすて掃除波　婆城

こゑいそ〻る人なし月の秋　太し 横下　一鷺

新月や相の風吹く秋ぶ　窓雪

名月や嘯く葉乃ゆゑ頻　得魚

雲むや迫ゆる月の小野宮　仝

移〻るや庵の集る月あぶ　武舟　由之

新月の水のきし山もあるゆ　木丈

明月のゆ小見や案内共　左席

一陰の山雲みやゆる新月　小田原　暁長

名月や見あ世ゆ秋も男ゆ　素文

雨ま雲ゆこ免ゆ乃ゆ新月　仝

名月やゆ〻きゆ方ゆ伊勢お模　仝

名月や踊くゆ〻る西東　白夫

新月の影ゆ乃ゆ見ゆ新見ぶ　仝

名月や橋の家落る水の音　仝

新月乃雨をつ〻く横ぶ　暁長

ふきあら雲も消ゆ〻る新月　木孝

晴明の中へのそらん之月　上総大多喜　司九
八橋をなる程出るうるふの月　淑廻
明月や帰るくるして亀の松　蓼二
彩月乃農を忍漕の内遠ぶ　脳亟
名月や古人の月も此光　小田原　曉也
言汐や名月おて十二天　布谷
神もこうさ年のかこそ月　文流
姫淺みおわふ之のなるふの月　大ゝ橋ゝ　洞雨

名月や作けい足ゆる眉の素　午心
彩月や方を逆海ゑ小刻年　蓼阿
淺雪をちるまつ今日此月　兎友
名月や立ちつるき赤のあ　久川　欣白
吾妻ゝ神や咲ゝんりふち月　雨静
新月や機悉　蓮坊　糸　星衣
悪酒井を神や沼ゝんふち月　錦衣
塔門の額よむつふやそのの月　ゝ九

腸よ蓬生ふるん　月の友　達琴

春てかゝる民のくらふの月　至佛

虫鳴ぬ引者乃乃や今晴　恕曲

名月や此世よかゝる歌の和　探巨

常醫木も秋の紫裏よ今晴月　長梧

明月や雲の玄まより又玄ふ

名月や海神〳〵和明和玄峰　遠乃川　つゝ

〳〵の彩月彩のかゝる　琴来

名月や世ゝ歌の偶偶師　小田原　脈石

名月や四海よ多き句足沙　奥州会　楓童

明月や文て四山乃物きゝ　宗舟

名月や掃出ひ六月光明寺　秋良

名月や六六西よ多ふ多ふ新

海馬て楽色の恵乃月足ふ　羅徑

明月や西さ人代〳〵の歌ひ　上総大網　婆城

胸せ海る乃ひしりりふ月　生松

明るき十六日も後の月　午心

名月や羽衣洗ふ岡光

彩月は雲なきかぎりの雲つく　金川

月ふたつ秋の空中通りけり　遠かぶ　雲川

深雲を抜て雲の月　玉宇

名月やふるみて一沙鴎　不騫

、

流る日は深くて流し後の月　錦衣

后の月ぬきさま山の角すぬい　長梧

ゆ雲あ人のうつくしき後の月　錦城

后乃月新なき東辺ぶ　普成

後ぬ月七十隆度の神米ぶ　木ね

父母幸ひ作八月ふ沢　苗忍　十暁

後ぬ月角ふ筋乃光ぶ　栖地

ぬ名今育満ぶいん后の月　五桂

后の月更ふうつほの径　梅子

懸もあらじ世の後の月　仝

うち夫て岩方を出る后の月　五明

稲妻よ面のゝ面ゆふ新まろ　得魚

稲妻や北面あらしきの通雲　雲耳

稲妻や彩も十寸穂の芒　仝

なゝきしの吹度きんもつ風　小田原　谷子

蓑を伸よしゝて芒火ぶ　松葉

数孔仏女のゝ秋の山　後田中　一峯

秋乃山雲よなゝひて暮るゝ　社月

約清よ日のさしに雲妙晴ぶ　未為

彩雲や嶮き山のゝ彩つ　坊木　松雨

小底を鳴のさゝびや秋の海　飛尾　草雀

うゝ枯や尾芒を潜みてさゝる　素文

約章や誰よつまゝく坊人　上総大多喜　司丸

青雲や芒火の彩よ明鴉　玉宇

移庵梅ぬ枯枝みゝ至ろ　社月

高く雲も渉る渕よ鄙び　　七丸
ちゝ川汐よ琵琶も深むらさきの月　　晴里
太秦よ牛迫ひあやあの雲　　五桂
秋のおや茶臼の挽ちく音　　湖翁
約束の泊て陽ゝ瀑ち　　堂坡
川雲ひとさゝてあよ亀　　午心
秋ひとやよ小ぶ蕉の下の新　　白夫
小小の轍もゆゝんかり結　　今川　重民

拍子の音長くてうつゝ沙　　得魚
ゆゝ海ひとあて過ゝ秋の汐　　京花
落栗や鼈多き奥乃院　　上総大網　婆城
毬栗ろ乃ち伊もなこのもろ　　彭寿
なゝつまし赤よ卵ち鶏の花吉沙　　大乙掛下　一鷺
ちゝ川汐やうつ雲よせて坊乃　　東邪　磯月
行うつゝ又片鶏日もすゝ　　志静
ちつ汐や岩よ虫よ秋の雲　　呉仲

傘みしかの子放生會　紀南　魯水

蝙蝠の影をさそふ夕べ　夢阿

かゝ曲輪を打て人なし落柿　重碩

稲妻のうちの数の波の川　水口

川上を雲の中しかと鉦　金川　重雨

稲妻やきまてあるく糸柳

怖の山あしたの日や秋の沙　遠州西川　花邨

落椎や二十一社よりの木つゝ

秋雨や岸の撫草の嗚　一雪

鄙深の涙しる秋の函　冠雅

秋雨や七度降の晴まより　遠州　雪二

雲の尽くて降るもの妹の函　金川　重武

縱横に雲こゝて秋の雨哉　遠州　歌白

きまくまとも公し秋の函　山田京　来也

秋雨や雲さへ峰の宇津の山　漁舟

秋あやめ小よりを伏蓮の莖　ゝ九

川ゝの草よりじりり秋乃あ　一つゝ

ゆよりあや降ゝめりん秋の雨　曙鳥

点滴乃叫よ入し　秋乃あ　得魚

秋乃ゝ滴ゝ降ゝ落ゝし　武房中　由之

太平ゝ世代ゝ志の秋の香　素文

夕ゝや波ゝ立ゝ秋の雲　社月

接樹ゝ明ゝる戸乃り秋の香　青泥

清水の乃ゆ秋の香　遠琴

月絶乃滴よ人なし　秋乃ゝ　御殿山　雁路

一輪乃不防ゝさゝや秋の香　帆夕

秋乃ゝ雲ゝ後の種いつゝを　上総俊也　蘭境

ゝ川ゝ人乃ゝ秋乃香　後界　芳好

巒の石よあゆちり秋の香　ゝ九

、

秋の除妙写乃昆留よ　ゝゝり　披雲

林家うゑを入おやむの夕　貫耳

分入ハ多き志ゝおや中秋夕　小田原　一曉

むし啼や一里くの夕ゝ松　仝　綠鳥

秋乃牧の日よ含る秋ゝ耶　西吟

動ゝ勵乃乃ゝ和おや中の秋　不奮

むしの和赤ゝ望ゝ笠ゆゝ　たゝこ橋ゝ　泊沙

新焙ゝ乃ゝ笠き藜きり　木孤

正製をくいゝゝ丸を秋の嵯　夢二

秋乃嵯月日を友ゝ乃ゝ　かつら

虫啼や流を志ておき葛の家　白夫

咽ゝ京ゝ中ゝ宮乃啼ゝ　うつら

秋の牧よくゝ人志乃ゝ　木孤

ちゝひの風よ通りん　秋の嵯　小田原　壹中

秋乃嵯笠ゝ乃ゝ草のゝを丸　ゝ徳小之川　秋左

ゝ京ハ日を京ゝ山　房松

江南の秋を故嵯乃余ゝ　不奮

小男鹿やのべの草葉を枕にして夕日山　遠州　旅白
のべの露を出るの萩の声　後撰集　素性
角の大きなる男鹿　河内
鹿角を妻とつるみ合ひ　金川　重頼
伶人の笛を宇如萩男鹿ぶ　五桂
小男鹿の篠薄にて呼ぶ　仝
細布をつるつる鹿の声　〃九

野辺の草乃末葉ふ女萩ぶ　斗来
燃を吹消ぬ萩乃声　文流
豆見ま八荊の乃ま鹿の声　午心　後方
鹿ゆや山一山を引みて
図画の時ぶ佛一日の萩　鳳声
鹿呼や秋女のかふ歌乃乃　古挿
ゑを高乃ぬ高のべ鹿の声　不騫
鹿八声を消て男の萩　河翠

妻こめ蔬こしらへけるの夕　下総行田　百舟
落ちこむ蛩あちやの声　駿府浮世　蛍光
秋しい秋の紙子や麻の夕　於ケ谷　翠兄

、

矢を負ふて奥流さる秋の水　立桂
秋の水二階にあてて寄もたる　金川　雪兎
秋の夕ふるさとの山　百吟
百里来て海あをき玉や秋の水　大き柱下　草石

秋の夕日をうつして流れ　午心
秋の水梢乃搖うつる　投雪
萩ちるしらさしらさ秋の水　不蹇
犢の潜ぬきり秋乃夕　梅堂
紀の山乃えてゝ秋の水　大き柱下　草石
秋乃水彩て銀のも流れ　小西原　雪母
宮も暗む御山鳥や夕ゝ　吐芳
湖のうしほ夕ゝ　上総大網　蘿止

つゝぬけて秋入る日や蔦もみぢ　とを花
古寺へ吹まとをる蔦もみぢ　栖恵
秋の水思数流すおとしかな　木孤
泉涌て入て吹こゝ秋のこゑ　遠州　欣白
温泉灣や吹こゝの数も左八ツ　左と橋ヶ　卅石
鶏ゝ八蕎や伝ふこゝ吹こゝ蔦　白走
水ゝ水ゝ稀ゝ林ゝ吹こゝ蔦　仝
吹こゝ蔦千鳥ゝけて鶏こゝ　仝武

月高ゝ山田の乗山こゝ乗こゝ川　秋杵
きよちゝ新小田ゝ松や吹こゝ蔦　五桂
草枯や仏こゝ蔦ゝ小松原　奥法川　二嶋
古ゝこゝ神の賛大ゝ菌ゝ　一つ
草枯や仏こゝ乃搭ゝ吹へ　恕曲
大蘭乃ゝ乃ゝ陳ゝ秋の表　芦丁
眼松乃ゝ象ゝ量こゝ林の帝　晴田
秋茄子弟兄のこゝ知みゝ　上総小西　仙菓

掛稲や南〻木乃渡の柳　続け後　杉風
新法師の車ゆつる蠶ぶ　蘭仁
〻枯やそのゝ初より紫藤氏　午心
掛稲や人の性来もむ〻乃　重碩
雁よ稲〻ちらけし地蔵ぶ　玉宇
澱乃流きを出て新酒ぶ　大て後ゝ　州石
宮川へ流ま寄〻んを酒　乃ち
〻き秋乃志ま小ぶ新酒ぶ　緩斎　月兼

蕣よ寄よと渡墨詩哉ぶ　庚列塞之台　宮人山
山寺や剃年防よ鶏の卵　奥石川　千隠
ち〻寄や世を横よ尼ゝき　木孤
咲ぶ新幹よ月の巳庚生　午仁
日を変ま〻ゝ〻ゝ渡丁　木曳
扶ゝて扶来ゝ寄や小田の丁　玉宇
為ぶ日ゝ殊よさ、〻ゝ芦の丁　白芝
江の芦よ丁の孫蘇至種の　加つゝ　京芝

賜帝や勇ましき小弟仲　うの雨
小春色さしてうつる田の丁　午心
秋の色丁まかりつむの醤油　上総中島　茅河
光明を知るやうて侍丁　太之橋下　草石
近宮の伊勢まつる色天津丁　沙迦
大寺の鐘まつる月の丁　雲耳
高丁や友の為きし稲を刈　京芝
林〳〵さを画しめるや西の丁　夢化

鶏少の鶏〳〵赤貧丁　文流
橋乃底まかりつるつる丁　探巨
さつ丁や朝まかりし五郎の蟲　至宿
丁うまや一番つるる秋の末　後田中　芝好

、

赤丁ゆる孫をつれや老を石　布谷
秋の牧まつち桂つるる京小　唐刊　水衣
〳〵衣の〳〵くも橋乗小　掛川　欣白

この糸杉木の芽こりう小夫張　念
こゝ清らてあ人のゝん小夫張　たゝ掛ケ　せ川
小夫きあゝ竹ゝとすゝ　不流
掛ゝ見ぬ袈裟ゝん小夫張　老阿
草も木も能桑て迄ゝ小夫張　木丈
あゝしいなゝのゝりう我搆云　探巨
石女の目を見ひ見小夫張　千川　木秀
雪仏楽のゝやゝゝ小夫張　苦成

こゝゝ安き秋の林や小夫張　京芝
あ井をゝ川きゝ小夫張　不流
亡人の言ゝ新ゝあきゝあゝ
寝ゝ市ゝ彩ゝ夫の雪
暖ゝ雨ゝ祝祢ちつて彼日
迷製の中ゝゝ雨ゝ　小田原　壹中
武隈ゝ杉や植ゝん壹角力　木羽
父母ゝゝるのむ植ゝ雨ゝ　白夫

西陣（好人多し）勝手向ふ　秋兎

、

宝の後蓬も合さり菓化　阪象

五十年菓よりいつの花よ宝ゆり　午心

志ゝ菓や切てさけゝ　図西　紫秀

三光の日和を見ゝ菓菓の有

宝菓よ西施の笑敬画ゝや　物我

志ゝ菓の蔵より伊勢の巻　雪人

志ゝ年今年化物菓宝　つ雲

い詩くの菓よ郎ゝ仏ゝ　玉蛾

父ゝ成母ゝなるつ菓化　阪象

あふ恋よ似て宝菓ゝ貴菓宝　掛川　阿郎

志ゝ菓の志よ出ゝなるつ　上絵木文庫　馬猪

白菓や形ゝ色ハ艸の宝　探巨

形ふゝ形ゝ敬命ゝ菓化　西吟

ゝつ詩くゝ月の宝菓日乃　大垣　亀水

貴菓

勅動の[illegible]　玉宇

[illegible]　小田原　文左

白妙よ佳氣[illegible]川菓の日和[illegible]　不騫

春[illegible]　後府　欽支

初菜[illegible]日の[illegible]東山　雨

魚[illegible]入め鵜　[illegible]

格[illegible]小なき川や[illegible]　午心

夕[illegible]ちつ[illegible]初菜し　[illegible]

勅願をさ[illegible]　大[illegible]橋下　草石

遠山の[illegible]ちよ三乃光[illegible]　仝　一雪

[illegible]初菜[illegible]　欠川　欽白

初菜見や仰の[illegible]幕　後府　周我

ちと[illegible]初菜　午心

[illegible]ちの[illegible]　金川　玄爽

日の[illegible]初菜よ[illegible]　志芝　恕曲

滝壺の逆枝うきあるかな　太乙橋下　一鷺

あらひなきし柴ちの神ちらあるかな　曲肱

木偶の琴の新しらあるかな　雨吟

石臼の石臼言ひあるかな　更級舎　青由

紫雲乃ひかりくもあるかな　久川　欣白

天兒の火影の知らあるかな　小田原　曉良

該炮乃尾上の新しらあるかな　不寡

有明乃月の月ふきあるかな　上総大網　藤止

秋やうつくしかりけるかな　かつ乎

行秋やかなの芋ほりむうりあ　柳川　欣白

秋の行くものむ藜ふ　唐州　水衣

ゆく秋やあるかかなしき蟬の殼　田中　磯月

秋の日の日の秋の青鮫　小田原　不二ノ松

葉の果なりの月九月ふ　布泉

紫屋ふ京幃形や芋の秋　武蔵久　一つ

秋や春の牡丹あいふ　源兵

西く秋の露流き紫苑哉　年心

[illegible]郎

小春や尾花ふるふる蒲達　得魚

光陰の雲とゝ流つて小春哉　小田原　雪坡

有明て月も小春の蛍哉　たゝら橋下　一鶯

ゆゝしくとすゝ小春や天津丁

百姓乃瓦根黄小春日和哉　後小ち　橋子

小春風鶴乃浮糸多里　一つゝ

[illegible]日の鶏鳴乃尾ふるさゝ乃

[illegible]日や濱荻ふき枯尾哉　文流

木枯

蒙の夢ふる里乃帰哉　たゝら橋下　木奴

[illegible]一輪乃麦見草　止孝

帰哉峯ハ汲ぬ桜乃色　上信大多喜　土数

朱のこゝろハふるふるめ[illegible]哉　信頑

ゝゝ世を思ふまゝ帰哉　杉木　杉雨

帰雁かすみふきたつ時より　小田原　表也

帰雁枝も葉もなき梅の花　後江尾　木枝

画よりけり女のこゝろ牡丹　蓼匂

世唐土笑ひなりみるこゝろ　遠州田　雷之

長安のちゝひらうみる牡丹　也我

寄生乃松ゝゝ葉葉ゝ　蓼竹

葉葉撥窠まそ来ゝ　小田原　巴丘

本形の株木削ゝや葉柴山　大ゝ橋本　一路

松柏の髮しきよ葉柴山　木海

きまくまの山も葉葉ゝ　下総古河　東里

うつ惶のまるまるゝて葉柴ゝ　晴里

滑敏のゝ作しやちゝ柴　大ゝ橋本　馬耳

一山よ翻る方を葉柴撥　宗路

ちゝくゝみちくるき谷中迄ゝ　投雲

敬ゝみちとゝむる神もゝゝ　不騫

山ちかく住る日ぞ物すごき　雪
湯の華乃ぬくとくして附る色　上総大多喜　我爻
草も木もいと長き日よむ附る　午心
蓮生ぬ絶えあなしむ附る　木羽
志ら雲やみを脱るつほ搖　後嵯峨田　壹月
ちらくぬ殘る我を初附る　菩成
小枝〳〵鳴て川音附るら　後有　柳泉
ちら〳〵流ぬ椰の古葉ぶ　一時

大こ橋下

山ちかく住る代ぬを見る〳〵蓮ぶ　晃鳥
小枝ぬつ志ら蓮つ森ぬ俤ぶ　房州南条谷　完山
志ら蓮りう又附る戎森ぬ　木羽
演楽の水ふるき拾ぬ　午心
春かゝる日の影ぬ拾ぬ　秋杵
かゝるも志ばさりう多ぬ　夢の
巣ぬ籠る古井の色や拾ぬ　雨吟
多拾ぬ廣沢の末乃月ぶ　後有　荒振

啄木のあようあるく拾ひ　左株

あく拾ひ風ちらさまよ峯の月　上総小西　仙菓

菖を橋拾ひ里火ちあるも　一つ〳〵

焼引くと拾ひ木のわきあひ　後者　柳泉

、

悠然〳〵南　弥生ちちつぶ　晴里

炉引くきや榆　柳よ似る炭の枝　吐芳

小さしを西潮よえも炭あ　秋祈

潮ようつとて遠し　炭焼　小田原　素中

簑簾こしよ西日の暑ちあ　栖地

山ちの暑よ引くちあり　武蔵久　素祈

あくの猫子一ち少あの　旭丈

濃妻の猫を猫よえちあ　上総大多喜　月九

あくの蠅小町ち孫よちあ　木母

拾ちもなつきあ　左ち猫下　木奴

麦の畑麦を従十拾寺　小田原　壺中

荻笛を絶てそそれる十板分　来西
ひとふしの月の影ゆく十板分　河琴
高くそそを出て炭竈の面　古泉
夷講　蛭子ハ仙波　五明
こもき板ひしりの巳炭　玉宇
等宗社衣持　砂自
名所自淑田人ハ姉竹　後舟　豊雨
時形弁のうさよ名所月　秋鳥

名所月ひとり東乃賀分　雪成
知るの高あ夷人名の月　文呂
名所自池孤ハ孫をうまれり　栖雄
池ものも拾ふ名所月　六葉
佛なし神なしの月ひとり　スこ橋下　一鶴
撫乃池小沼る素あ分　高堤
素乃御塔人足ひとり　奥松金　奥交
内宮の出炬燵ひとり素の松　乃雨

多賀の浦高しの乃杉乃梢ゆ　武府　重之

霜りふる大杉原の旭ゆ　仝

法華乃尊堂みゆ原の夢　上総大多喜　菓子

焼火の神ふるあおゆ　大ゝ橋下　草石

根乃をの道をなめてあおゆ　社月

四十かゝゆ学へり霜の夢　大ゝ橋下　宗尔

を表はの原山乃旭ゆ　仝　木奴

人を見る融のつゝみの月　白麻

人ゝ見まうんゝあの霜　神梨

枯柳季札の紋を覆ひゝ　不審

熱宮の強馬まゝり枯柳　一つゝ

老木の長梅ゝ枇杷の赤　木奴

こかゝゆ南風も表ゝ　探巨

風やきけゝ枯山　曽成

はかゝゆ嶺月峯の紅葉　不流

こかゝゆ乃風ゝ月乃小松原　楚扣

こがらしや峯雲ながす月　後舟　矣山

風や弱日ゆる曲の雪　木母

水仙や世話俗を忘の友

水仙や旧跡の右左　秋兎

水仙をきらはぬめの目ひぶ　小徐左京　吼月

水仙や活つてゐる男へ　玉宇

冬や一作るまき　光板　後舟　文流

むつの〳〵世やく火桶を抱り　文母

弊の搦火する画ちなし　小川　雪武

鉄炮を抱くなして搦の岩　小田原　蒼亜

中庸ゑ寄くの人なるん　相大桶　義伏　桃雀

りまきるハ原山の雪を記　炭　たゞ橋ゝ　草石

雪踏や鞍馬の搦を鍵世ゑ　白川　二嶋

文るあや火桶と美乃　魚　完路

大根の流てゐる川ぶ　木母

雪さらや象あきらへ車俺　栖雄

鰒蒸や鰒を煮て之の紙　玉宮
骨喰ふ歯もまさらんの豚汁　木枕
燈の余こうろ寄　鯨　午人
まゝ着も神の松し宗喰　布谷
大海や鯨の臓も魚とも　伊之助
思殺の大くらもん宗喰　晴里
寒ゝ鯨を圖の松ぶ　玉宮
寒い岳秋ちあ菜と鰒の皮（たし掛へ）　木奴

白鷺や海より来る日を伊勢鯨　得魚
を飛秋津出しまゝら　不驚
蜂を着て追ふ納豆汁（上総小糸川）　正母
海原や山より低き海鼠ぶ　河翠

、

まゝ寒や焼まぬ松も神魚　親支
忠孝のかよなし雪の雲　建牧
八幡や清水の鯛も雪の如（房州）　水衣

三十五

遠掛川

たゝなはる神路山　空人

雪棹や雪白う育の雪ま雪　栖墟

月みなりゆきはつゝ折ふす　うま

たゝ雪よりかくまて葉の　武蔵中　紫ぶ　阿聚

あの雪裏の火影ゆゑ心　上総方中　由之

ゆゆつ影の樊火よりかゝるぶ　雪和

末つゝきの松林一雪形　文流

雪ま月ふきみかとはなるゝ　夢阿

たゝ浪や川辺て浦の雪　上係方名花　水光

雪ま雪君か思門をちゝ　枫楷

幹をまて雪ゆゑ折ぶ　なて掛下　一鷺

思ふの山ぬ杉やつゝる雪　下係編水　孤面

思義を切て出りん雪女　太て掛下　草石

雪をまてなをたゝきの樽ぶ　仝　仝

うち伏て蓮のゝ雪の杉　干心

樽の雪うちはゝ火影ぶ　事志　一丈

[illegible]原東乃田井の櫻ゆ　欣白

[illegible]やをのゝ初を踏ても　六葉

ゆ[illegible]ゝ　切るゝ　松のゝ[illegible]ゆ　河葉

[illegible]の[illegible]限なき二十九日ゆ　不騫

[illegible]おやなやめる井ハ井西人　廣別南谷　文南

[illegible]や[illegible]ハ[illegible]の人[illegible]　[illegible]

[illegible]ゆ[illegible]ゆ　後田中　一嶂

[illegible]ゝ[illegible]ゝ　[illegible]さ　楚拉

[illegible]ゝ[illegible]や人[illegible]選て七味　曙爲

地をいつゝ曉[illegible]月や[illegible]の[illegible]　楚拉

ゆ[illegible]ゆ山むつまゝ[illegible]　布谷

長明の車乃[illegible]　ゆ支

[illegible]おや[illegible]ゆ後月樽　一つ

[illegible]より[illegible]の[illegible]　木坂

[illegible]て日や[illegible]の猿　後田中　俄月

[illegible]ゝ[illegible]の松　菖成

傘さへぬれても清き雫かな　文雅

志ら露や世をつらぬける玉椿　雨吟

露なから日や風を椿子蝸牛　六葉

こほるゝ露の秋見ゆる露の空　得魚

姉のなき風情し飯の露　生松

魂のほころひて露見んか　仝

地に落ぬ雲井の露や松の露　楚狂

一蓮の桔葉を鶯の舎かな　太子橋下 木好

水多なる星の林にさひしかり　武蔵久 涼蛍

ちるまの経て沈むの浮身かな　木羽

汐ろやしまの浮寐も小雨かな　太子橋下 一鷺

小松ちるり志るしの標題し　遠揺地 桃六

到しきり月子漂ふきみかな　完路

露落て返る日を待ちり蛾画　六葉

放まれ露るも水衣の茂かな　梱雨

[illegible]や人のかしはぶる　吐芳

鶴鳴近つく鶴来るり　峯の寺　六葉

大樹瓦乃家より生るりてさくる　鳥川　子隙

みてさくるの乃是八眼よりかをりり　伝頃

暖を筑のるるよりこころりる　蕗成

数瓦乃　此堂より多き拝ぶ

るを拾て視の布袋の来あるを　後口屋　梅舎

出山の佛しるり大根引　たゝ橋下　宮子

山寺より風を囲へる松之　一雪

此小のるるきを交を細代ち　木苑

為丁此新茶る拝ぶり細代小瓦　蓼化

吉野見る復燥て多せて多瓦　一つ

濯よりおるき三居の多云ぶ　たゝ橋下　草石

へるるうる書るる多云ぶ　小田原　雪苑

雪より外美や乃へるる金云　仝　梅ち

森さるる此清き雪より金云　たゝ橋下　一雪

かさまの巣すや成ん哉会　仝　仝

けふの月ハ雲ハらハ雲ハ　仝　草石

庵枝を折ふり雲の杉　文流

雲ハ樵夫の石を伝ふり　岸芦

雨ハ濡て佛よ沐ふき　民之久　涼芝

米踏て宮ハ志つ〻し　沐敦　雨草

我戸踏て出りん寺ハ佛　木枕

ゑ枯の紅ふつ〻り沐扣　小田原　文左

法竈の紅ふめ〻る色沐扣　穣伯

寺〻ハ佛連ひの寺を踏おゝ　山猿

寺〻ハ佛ふハ安方と〻へり　曙鳥

嘸の明星〻〻沐参き　下総新門　百舟

寺〻抜や一條つゝ茶〻ハ　牛甫

ゑ巣の揚ゆ多きと〻あゝ　武之介　聚兄

師走山寺を〻ふ〻ふ〻ひ　不騫

とし　志ほて　ゐる　ほとの　秋　　越後　北　　重敎

とし　志師　走の　月を　悲しう　　彦州　　水衣

岳眠も　佛乃　教を　ル　佛名　　掛川　　月主

叡山ま　雲ゐ　きこ　ゑや　遲　儀　　蕾成

儀遲や　焼火　ゐる　家の　杉　　午心

次を　流し　ル　階の　ゑや　遲　儀　　重淵

雷の　陳ま　ゐる　ゑや　除　教の　ゑ　　探巨

燥掃ま　除て　ゑる　ゑる　日和　ル　　午心

蕎屯の　義し　ゑ　ゑ　燥　掃　　大こ　掃ル　馬耳

掃ま　遲　儀乃　ゑ　人　ゑ　ま　ゑ　ゑ　　布谷

燥　掃や　荒ま　ゑ　ま　ま　ま　蕎　　完語

燥　掃や　伊か　ゑ　部　世の　掃　柳　　仝

燥　掃や　ゑ　尾ゑ　一　月　蕾　ル　　栖城

札を　きめ　二見の　波ま　ち　ん　　湶城

、

ちさ　面　ゐ　ゑ　掃　賣　ゑ　ゑの　　長梧

ひとしの足ゐきこゑ穴ゐりゐり　柳絮
とし竹市ひそ代　浅茅の露ゐ　不騫
遊乃ちゐ　こしりゐ年の昔　午心
ひとしの杖を打をむめ　樓　小田ゐ　十曉
ひとしや人ゐも遠人絵ゐの弟　上絵大多年　日九
佛法ゐ入ゐひ　春の雨　文流
髑髏苔ゐ人ゐ　二絵大綱　姿城
株札乃幻ゐ　見ゐ　午心

治まハ我ゐ　こりゐとしの名　栖情
としの市ひ　ゐ人ゐ　仝
文政の年ゐ　ゐよ候の吉　莖坡
拾ゐ　ゐ　ひとりゐ古　唐　うつ雨
市季ゐや永代拾ひ　ゐ　不騫
逢ゐ　ゐ　絞ゐ和布刈ゐ　布谷
ひとしや人のん乃かゐ　ゐ　沌麦
志ゐ代ゐ　ゐ月日ゐ古ゐ　掬舍

日を請む枝乙乃衣配　木邨

雨乃のいつちりんとしの音　掛川　之桂

節季候や華小きりうち坂　白川　芝月

第子乃梅に今年も玉葡　筑後　貫嵐

嫁よ安き腰より狂女の春　一つる

名月に燈をかへ田舎の宿　完来

未わらし日のあとく梅乃下草　一鷺

幹はさくの萬蓮乃蓮跌丈ちらす　午心

食粉すゝのしむ親子ニ人　来

梅たる梅しらも月琴足ゆ霞　鷺

松山路ふさゝ代ぞも露　心

淡路ふく穂屋の[illegible]
丈まかりつゝ丈乃賀筆　鷺
千代ちよきし淡路の髪ゆらふ　心
[illegible]ちうの丈乃行町　来
[illegible]次して雇ち物をとりし　鷺
似さ成[illegible]と雨の世語　心
国かたり山姫と寄乃西東　来
しくきうるき神の株物　鷺

[illegible]ひて[illegible]ひ歳く樋の衣　心
笠つゝ[illegible]文を元和の自　来
姫くとと八十行乃京の戈　鷺
二淑みふきる毒[illegible]永　心
三年る雇を茶毗家の中の烟　鷺
[illegible]ていハ形恒も忠今[illegible]次　心
菓子皇の爰ゆ頃よ世落みより　来
彼の淑来乃志姫州[illegible]ろ　鷺

墨染に登れる人の道たのもし　心
[illegible]　来
[illegible]　鷺
明[illegible]　心
[illegible]縄[illegible]　来
[illegible]　鷺
月[illegible]　心
[illegible]　来

西暦乃[illegible]
[illegible]年[illegible]世の[illegible]
大掌[illegible]
[illegible]
[illegible]
錦[illegible]

鷺
心
来
鷺

[illegible]

蕉門雪門俳諧書籍目録

書林 文刻堂西村源六

蓼太句集 三世雪中庵明和の頃まで の幾句をあつむ 二冊

同 二編 初編よりもれる安永中迄の句数集 二冊

同 三編 二編よりの残る天明七迄の句をぶくを 二冊

夏百歩集 蓼太先生其中の集 文章幾句あり 一面白し なり 一冊

七柏集 雪中庵蓼太著 歌仙百廿章 四冊
時代変化の神代物語の歌仙 なりしを翁をのべ先生著述あまた の中第一の著述なり 俳諧を志しある 人いのちをしむべき記事

雪門七部集 七冊

新笈引集 附合の秀逸を抜き集 三句のうつり風あり 山幸著

去嫌表附歌 山傘とあり仲しの基記去 嫌とは奇なり 便利のもの 蓼太著

住吉千句 蓼太先生月夜忘三先生の 十百韻あり 附合の秀逸

墨水西岸行 雪門古老の人を偶思 其年の幾句あり

百羽記 蓼太先生独吟の百 百韻あり

武陸二歌仙 むさし一世紀行 奇仙千句 蓼太著

秋の夜 不玉の歌仙 句数多の 作あり 完未著

探荷集　雪門高矣秀逸の俳句集なり
初編二編三編　蕉太評
四編喪夏　蕉太評　秋冬完来評
五編六編　完来評　共七冊

附合小境　蕉太選　小本　一冊
牛宋著
三物の解月雪の句意句のうみを外附合の使ふ事多く故人の流を要し〳〵ガキを半紙出を

蕉句小かゝみ　蕉太選　小本　一冊
三絵著
蕉句の著方趣向をとることを編く句業の一助なる事を出を

七部さがし　東光述
蕉太著　一冊
芭蕉翁七部集の中解らざるを門人の問ふ事を考て書る書ふく七部の側よ出をなんへ有へくぶ

三吟未来記　白蕉其角嵐雪三師の寄仙
蕉太著　一冊

部屋やうし記　宋延廿五葉の解説句の授受り
蕉太著　一冊

芭蕉庵再興集　蕉太著　一冊

三玄日記　円
徳寄仙有　一冊

統波紀行　蕉太先生文章紀句
嬰兒著　一冊

秋山家　素紅系　歌仙
夜兒著　一冊

蕉太
吐月　附合高點集　三絵著
小本　一冊

蓮華會集　蕉太著　三冊
表合四季　蕉句
先生五月雨の句程叙南　詩文章入
七部の側よ出をなんへ有へくぶ

雪門報恩集　完来再訂
全　二冊

十三家　附合蕉句を〳〵俳諧の句作をなる事紙あり〳〵
蕉太述

花ぶんす　正花　軽花の半紙要く
ちるを　円述

棚さらし　円しの金〳〵門人の雪先生
自言を口述しある
書を俳句を益ある之
蕉太著

ゆちまろも　蕉太居士俳句の紀そ
門人寄仙有　四世　完来述

吏登句集　二世　雪中庵〳〵人の
句集〳〵

亀戸
奉納　萩芝華類題集　完来先生
評選
当時雪門俳句秀逸の句紙
数多あり〳〵

心ゆかし　文冊著　三冊
月菓四季　蕉句集　雪門歌仙
俳句〳〵あり挿画入り

雪のまち　阿人著　三冊

惑問珍　吏光著
〳〵の〳〵
秘伝の問答〳〵
教起集　蕉太著
附編　雪門名家寄仙蕉句入

吐月句集　附指遠　匠麦著　二冊
子規亭の蕉句紙多〳〵あり

其角句解　晋子の句を注をあるを
荘冊著　一冊

三編ちの面　完来著
表合　教章入

蕉太文集　完来著　近刻

俳諧書舗

江戸本石町十軒店

西村源六

俳諧名數　懐中本　一冊

此書ハ漢句付合文章等ニ入用の品々書ハ天門地理部の土部より七夕の士姫ハ天門の部にあり地理部の流水の八象人事部ハ年賀の異名釈門の忌日の異名等を詳さまくの事柄あり人の夷曲より俗語雅語迄種々を集録の本なり

さる歌　治涼著　折本　一冊

古俳諧歌ハ〻〻〻〻の一助なり

ちゑひ大全繩目　立甫著　一冊

此書ハむすびより初り板行あり其他なりきれく捻合紙正〻〻寛永版の雅俗なり

毛吹草　七冊

四季名歌　季吟著　小本　一冊

春夏外俗書新行なれども仕入重〻し世有希ふ　西村源六

かゝ内紀行　文紙翁著　物人行　一冊

つきく集　月次間の紀行　物人行　一冊

芭蕉袖双紙　小本　二冊　近刻

翁一代の付合紙悉くあつめ

いろはきれ　冬広坊支元著　四十八字〻〻きれ本より俗句紙出

冬広文庫　支元先生の文章紙あつめ板行

○俳諧御集物　板行仕立

○同時物　妻帖の類　板行

右出版有り節ハ出用に応じ付て求ひ出来揚置致出版仕候